

# 2006「植村直己冒険賞」受賞者が決まる



▲K2登頂の喜びも束の間、山頂からは急な下降路(右下の雪面)が待ち受けている

写真提供：東海大学K2登山隊

## 【世界第2の高峰<sup>ケーツー</sup>K2に日本人女性初登頂】小松由佳さん

2月16日、植村直己さんの母校である明治大学紫紺館を初の会場にして、11回目となる植村直己冒険賞受賞者の記者発表を行いました。

2006年に日本人が挑んだ177件の冒険行の中で受賞者に選ばれたのは、日本人女性で初めて世界第2位の高峰K2(標高8611m)の登頂に成功した小松由佳さん(24歳、東京都在住)です。

記者発表で、小松さんは「みんなで挑戦して受けた賞です。今後も自分の可能性を信じて、チャレンジ精神を持って未知の世界に挑んでいきます」と喜びの声を述べました。

なお、授賞式を6月2日に日高文化体育館で行いますので、皆さん、楽しみにお待ちください。

《問合せ》植村直己冒険館 ☎44-1515

ルールのない自分を表現  
できる登山をしたい

急峻な山谷で、世界で最も登頂が困難なことから「非情の山」ともいわれるK2(中国・パキスタン国境)に日本人女性で初の登頂者となった小松由佳さん。

秋田県出身で、小さいころから山を眺めて育った小松さんは、高校に入学すると同時に山岳部に入部し、競技登山に打ち込みました。しかし、「決められたルートを急ぐだけの山登り」は自分に合わないと感じ、大学では、「ルールのない自分を表現できる登山をしたい」と引き続き山岳部に入り、雄大な自然と格闘する本格派登山を志しました。

失敗したとき、女性だからと言われたくない

小松さんが大学で苦労したことは自分が女性であることでした。「失敗したとき、女性だからと言われたくない」と、男性以上に厳しい鍛錬を重ね、東海大学山岳部で初の女性主将を務め、チョモランマ(エベレスト)など海外登山の経験も積みました。



▲第1キャンプ(6400m)から懸垂下降をして仲間が待つベースキャンプに向かう小松さん

卒業後も、「山に登り続けたい」と就職せず、東京の山岳用品専門のスポーツ店でアルバイトを続け、2005年夏、東海大学山岳部50周年K2記念登山隊への参加を誘われました。小松さんは、「人から与えられたこのチャンスを逃してはならない」と決意し、6人のメンバーの1人として参加することになりました。

## K2の8200m地点で常識破りの露営を決行

小松さんらをメンバーとする東海大学山岳部隊は、2006年6月20日に5150m地点にベースキャンプを設置し、急峻な岩稜が突き上げる南南東支稜からK2を挑戦することになりました。ルートは、7900m地

点にアタックキャンプを設置。態勢を整えいよいよ7月29日、3年先輩の蔵元学士隊長、3年後輩の青木達也隊長とともに登頂にアタックしました。しかし、出発して間もなくリーダーの蔵元隊長が腹痛を訴え断念。出利葉隊長は、経験の少ない2人にアタックさせるかどうか悩みましたが「チャンスを与えたい」という思いから、アタック続行を判断しました。

小松さんと青木隊長は、8月1日午前3時にアタックを再開し、深い雪に苦しみながらも約14時間後の午後4時50分に念願のK2の頂を制覇しました。小松さんは日本人女性初、青木隊長は世界最年少(21歳)の快挙でした。しかし、喜びに浸るのも束の間、下山途中2人の酸素ボンベが空になってしまいました。そこで、2人は常識破りの8200m地点でビバーク(露営)を決め、朝を待つて再び下降することになりました。その時のことを小松さんはあとで「私は山での第六感を信じています。ここから下りてはいけな」と山の声が聞こえたよう

気がしました」と振り返っています。

その後、2日午後0時20分、アタックキャンプに到着し機材を撤収し、重い荷物を担いで4日午前0時30分、仲間が待つベースキャンプに無事ふらふらになりながらも生還しました。

## 自分自身に挑戦しても山そのものに挑戦してはいけない

「一人ひとりの力を合わせれば、こんなにもすばらしいことができるのだということ

を感じました。K2という山

そのものにも登らせてくれたこと、生きて還してくれたことに対してとても感謝しています。人間と、山と、その絆と、私を取り巻くすべてのめぐり合わせに感謝しています」とK2登山を振り返ると同時に「山に対しては謙虚な姿勢で挑むことが必要です。山という場で、自分自身に挑戦しても、山そのものに挑戦してはいけません」と改めて登山について語る小松さん。この謙虚な言葉に、植村直己さんが重なり合って見えました。

## 小松由佳さんプロフィール

1982年、秋田県生まれ。元東海大学山岳部主将。山岳同人チーム84所属。「私から山を奪ったら空っぽ」と、スポーツ店に勤務しながら、山に挑戦している。



### 〈主な冒険経歴〉

- ◇2002年 ●雪岳山(韓国)
- ◇2004年 ●雪岳山(韓国)アイスクライミング  
●カラコロン山群主峰ドルクン・ムスターグ(6355m)登頂(パミール)
- ◇2005年 ●チョモランマ(チベット)6500m地点まで登り断念
- ◇2006年 ●バンフ(カナダ)アイスクライミング  
●K2(8611m)登頂(中国・パキスタン)